

「校歌」への思いを描き 九州大会で優勝

松浦高校放送演劇部

県立松浦高校放送演劇部が、12月13日から15日まで宮崎市で開催された第28回九州高校放送コンテスト九州大会テレビ番組部門（九州高等学校文化連盟主催）で優勝しました。番組のタイトルは「校歌」。同校2年の丸山元平君、前田麻希さん、1年の村尾洋介君の3人が、撮影や取材などを分担して制作しました。

制作のきっかけは、今年度の生徒会スローガンが「校歌を熱唱する学校」ということで校歌に着目。学校設立当時校歌がなかった同校の生徒や先生の思いを伝え、校歌が歌えることはありがたく、また誇り高いことだということを伝えるために取り組みました。

番組は、昭和37年の学校設立当時に校歌がなかったことや、当時の学校新聞から、生徒会が働きかけて学校全体で校歌を作り上げたことなどを、卒業生や当時の学校職員のインタビューを交えて紹介し、校歌に対する思いや卒業生から在校生までが校歌を歌い継ぐ演出となっていました。

その取材の成果を約8分の番組にまとめ、11月に行われた同コンテスト県大会テレビ番組部門で最優秀賞に選ばれ、九州8県から参加した各県大会上位46校の頂点に輝きました。

丸山君は「優勝できるとは思っていませんでした。名簿で連絡をとるなど校歌制定に関係した人を探るのが大変でしたが、こころよく取材を引き受けていただいた関係者の方々に感謝しています。作品づくりを通じて校歌の重みを感じました」と話し、前田さんと村尾君は「初めての番組制作で苦労しましたが、高い評価を受けうれしいです。校歌のありがたさがわかり、一生懸命歌ってみようという気持ちになりました」と話してくれました。

同校放送演劇部は、県大会テレビ番組部門で最優秀賞に選ばれたことで、今年8月に島根県で開催される「第31回全国高等学校総合文化祭」テレビ・ビデオ・メッセージ部門出場の推薦を受け、新たに松浦の地域を題材にした番組制作に挑戦します。



写真左から前田さん、丸山君、村尾君

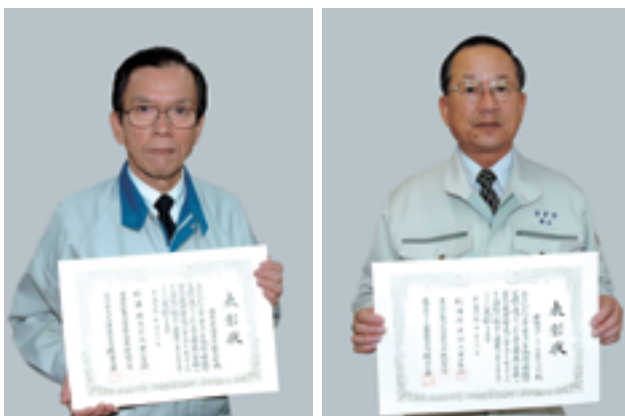
ラジオ体操優良団体を表彰

志佐町にある西九州共同港湾（大森元紀社長）と新松浦ポートサービス（大石熊信社長）が、平成18年度ラジオ体操優良団体に選ばれ、12月25日に表彰状の伝達が行われました。

この表彰は、日本郵政公社などが長年にわたりラジオ体操を実践し、健康増進とラジオ体操の普及に貢献した団体、個人を表彰しています。

西九州共同港湾は、会社設立当初の昭和63年から、事務所前で毎朝始業時にラジオ体操を実施。新松浦ポートサービスは、昭和63年11月に同所で事業を始めてから、毎朝始業時と作業間にラジオ体操を実施していることなどが評価されました。

賞状を受け取った西九州共同港湾の大森社長は「ラジオ体操で始業時に体がほぐれ、気持ち引き締まり、職場の事故防止と従業員の健康増進に役立っています」と話し、新松浦ポートサービスの桑山忠彦常務は「続けてきたのが認められてうれしく思います。社員の励みにもなります」と受章を喜んでいました。



表彰を受けた西九州共同港湾の大森社長（写真左）と新松浦ポートサービスの桑山常務（写真右）

100歳 おめでとうございます

林マツさん（志佐・長野）と 浅岡ハヤさん（星鹿・星鹿）

林マツさんと浅岡ハヤさんが1月、100歳の誕生日を迎え、友広市長からお祝いの言葉や花束を受けました。これで市内の100歳以上の人は、12人になりました。

浅岡ハヤさんは、明治40年1月16日、平戸市市田平町に生まれ、結婚して松浦市に転入しました。星鹿町で小売業（駄菓子屋）をしていて、近所の子どもの成長を見守ってきました。平成18年4月から田中病院に入院していて、杖をついての歩行ができます。

浅岡さんは「妹に手紙を書いたり、テレビや新聞を見たりして過ごすのが楽しいです」と話していました。

林マツさんは、明治40年1月10日、佐世保市吉井町に生まれ、結婚して松浦市に転入しました。子どもと孫は合わせて15人。若いころは農業に従事し、畑仕事をしていました。平成17年5月から養護老人ホーム海光園に入所していて、杖をついての歩行ができます。

林さんは「園の皆さんと一緒に、会話を楽しんでいます」と話していました。



浅岡 ハヤさん



林 マツさん